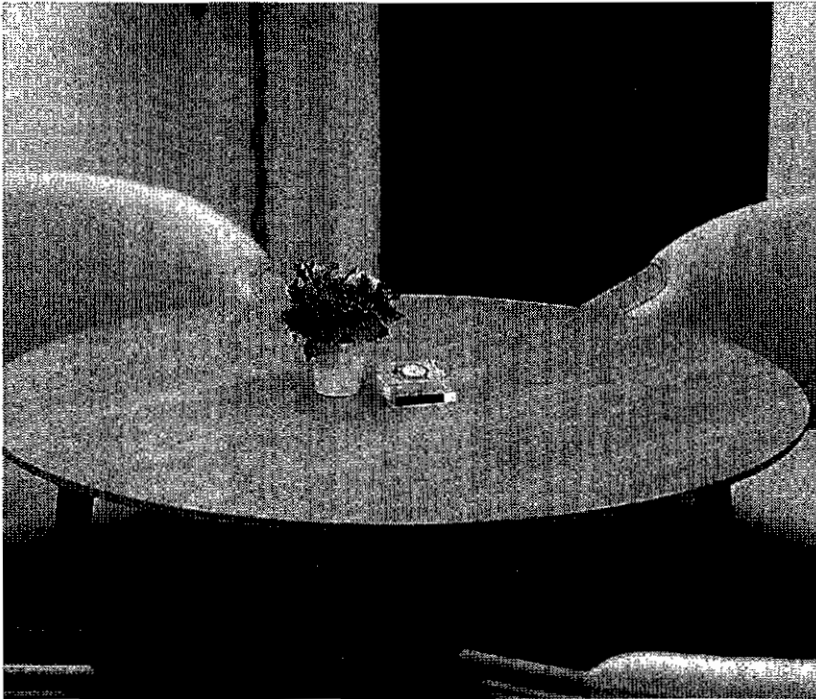


# 分野に応じた学生支援を



丸く落ち着いた雰囲気の中で相談できる経済・学生サポートルーム

経済学研究所・経済学部内に今年4月、学生サポートルームが開設された。学部・研究科単位での学生支援組織は、法・理に続いて3番目となる。東京大学新聞社では今回、本郷で専門課程を専攻する学生の相談を受け付けている経済・法・理それぞれの学生支援組織取材。学部・研究科ごとの学生支援体制がなぜ求められているのか探った。  
(取材・添盛久)

## 学生の近くに常駐

●経済・学生サポートルームに、気軽に話せる空間で解決の手助けをしたいという。このサポートルームで、特に『予防』というところを力を入れた」と話すのは、経済・学生サポートルームの室長を務める神谷和也教授（経済学研究所）。学生との悩みや相談が積み重なって大ごとになる前に、就職活動関係のものだといふ。適正職業の決め方や、自己アピールのための分析、エントリーシートの書き方などだ。同室のスタッフ

いたとき、経済学部の学生は「時間が足りない」といった現実的な問題を重視しやすく、少し立ち止まって悩むことが苦手かもしれない。こうした複雑な心理的問題を解決するには、とにかく一人に話せることが大事と海老根さん。人に話すと、自分の悩みについて整理でき、解決に結び付き

## 「期待に応えねば」

●法学部・理学部で学生が立ち向かうものは、法学部学習相談室に問い合わせたところ、法学部生が悩みを持つときには、真面目さが転じて「法科大学院に進学しなければならぬ」と、親や周囲の期待に心えなげればならぬという義務感が生じる。その一方で「それに耐えられないかもしれない」という不安感との葛藤に悩む学生が多い」と分析している。

## 固有の悩みに対応を

●学部ごとの支援体制の「潜在的な『予備軍』をサポートする手だては、どの組織でも大きな課題だ。『本当に支援を必要としている学生にどうすれば支援の手を差し伸べることができるか』(法・学習相談室)、「効果的な広報の方法などについて日々検討している」(理・学生支援室)、「休学中の学生などアクセスしにくい学生にどう支援するか」(経済サポートルーム)といった声がかかる。

	開室日時	場所	スタッフ数 (臨床心理士数)
経済	水・金 10:00-13:00 14:00-17:00	赤門総合研究棟6階640号室	2人 (2人)
法	月・水・木・金 9:30-12:30 13:30-16:30	法文1号館3階B5演習室向かい	3人 (2人)
理	平日 10:00-13:00 14:00-17:00	理学部日1号館2階237号室	4人 (4人)

境がそれぞれの学生の気質を育むからだと分かる。学部・研究科ごとの学生支援体制を設置すれば、それぞれの特質に応じたより細やかな助言が行いやすいという大きな利点がある。

法学部相談室では、「前期退学者を減らすために、学習困難者を減らしていく」といっている。